

2023年度「ヨーロッパの歴史・文化講座」年間計画 コミュニティふらっと永福

回	日時		テーマ	内容
第1回	4月27日	木	ヨーロッパ文化の源流①ギリシャ神話 オリュンポスの神々2	オリュンポスの神々のうち、アポロン、アルテミス、ヘパイストス、アレスをとりあげる。ルネサンス以降に描かれた多くの名画を通して、その人間臭く、個性的、魅力的なギリシャ神話の神々の姿に触れる。
第2回	5月25日	木	ヨーロッパ文化の源流②キリスト教 伝道開始～エルサレム入城	ヨルダン川でヨハネから洗礼を受け、いよいよイエスの伝道が始まる。エルサレムに向かうまでの時期のイエスの活動、教えを、名画と「新約聖書」の記述を通して学び、日本人の多数(多神教)とは異なる一神教の世界、信者数世界最多のキリスト教の考え方を学ぶ。
第3回	6月22日	木	海洋国家ヴェネツィアの繁栄	第4回十字軍で、ヴェネツィアはコンスタンティノープルを占領(1204年)。そして、東地中海の貿易の覇権を求めてジェノヴァを破ることで経済的な繁栄を手に入れることになった。それにもかかわらず、ヴェネツィアが独裁制に至ることなく共和制を維持し続けた理由、その共和制の実態を探る。
第4回	8月24日	木	ルネサンス期ミラノとレオナルド・ダ・ヴィンチ	1482年30歳でミラノに赴いたレオナルドは、フランス軍がミラノを占領する1499年まで17年間ミラノ宮廷に仕えた。宮廷からの多様な要求に応じつつ、レオナルドはどのように自らのテーマを探求していったのか。ミラノ時代に焦点を当てながら、「万能の天才」レオナルドの実態に迫る。
第5回	9月28日	木	ルターの宗教改革とその影響	今から約500年前の1517年、ドイツの修道士、マルティン・ルターがヴィッテンベルク教会の扉に95ヶ条からなる質問状を掲示したことがきっかけとなって、墮落したキリスト教会に対する宗教改革運動が起こりヨーロッパ全土に広がった。西欧社会を激変させたルターの主張とその影響の大きさについて考える。
第6回	10月26日	木	シェイクスピアと16世紀ロンドン	鋭い人間観察によって、人の内面、特に苦悩や葛藤といった感情を表現したシェイクスピアを英国の詩人、批評家のコールリッジは「百万の魂をもつ」と評した。「世界一作品が映像化された著者」としてギネス認定もされている。こんなシェイクスピアと、彼を生み、彼が描いた16世紀ロンドンについて考察する。
第7回	11月23日	木	アメリカ独立と18世紀ヨーロッパ	1776年のアメリカ独立には、フランスの支援が不可欠だったが、当のフランスはそのため財政赤字に苦しみ、ついに1789年フランス革命が勃発する。アメリカの独立はどのように実現したのか、またアメリカ誕生はヨーロッパ世界にどのような影響をもたらしたのか、について考える。
第8回	1月25日	木	『レ・ミゼラブル』とナポレオン後のフランス	ヴィクトル・ユーゴーが1862年に執筆した『レ・ミゼラブル』。ナポレオン1世没落直後の1815年から、ルイ18世・シャルル10世の復古王政を経て、七月革命後のルイ・フィリップ王の七月王政最中の1833年までの18年間の描写が描かれている。この作品を通して、ナポレオン失脚後のフランス社会の変遷をたどる。
第9回	2月22日	木	普仏戦争から第一次世界大戦へ	ドイツ統一を進めるプロイセンは、普仏戦争に勝利し、1871年1月、パリのヴェルサイユ宮殿で、ドイツ帝国の成立を宣言する式典を行った。ここからどのようにして第一次世界大戦が勃発し、ドイツにとって屈辱的なヴェルサイユ条約の締結(1919年6月)に至るかを追う。
第10回	3月28日	木	ヒトラー 権力獲得への道のり	近現代史上前例のない組織的な大量殺りくを行ったアドルフ・ヒトラーとナチス。なぜ、これほど人種差別と憎悪に満ちた一人の男がドイツを支配し、社会全体を凶暴化し得たのか。彼の人格形成に焦点を当て、その真相を明らかにしていく。